



2024 夏休みおすすめ本 中学生

『地球の冷やし方 ほくたちに愉たのしくできること』 519フ

藤村 靖之／著 晶文社

「狂気きやうき、それは同じことを繰り返しながら、違う結果を望むこと」by アインシュタイン（諸説あり）私たちが今のままの生活をずっと続けていくと、温暖化はどんどん進んで……。未来はよりよくなってほしいのに、一歩ふみ出せてないあなた（や私）。この夏休み、明るく、愉たのしく、前向きに、ちょっとだけ地球を冷やしてみませんか？

『猫だもの ほくとノラと絵描きのものがたり』 Y645. 7イ

いせ ひでこ／絵と文 かさい しんぺい／文 平凡社

ある日、牛乳配達をしていた僕は一匹のノラ猫に出会う。僕はこの猫を「キタカル」と命名し、「キタカル日誌」を書くことに。はじめは怖がって逃げていたキタカルも、鰹節かつおぶしで心を開き、僕の顔を見ただけで寄ってくるようになった。この猫との出会いは僕の人生を変えることに……。作中のいせひでこのスケッチも素敵な1冊。

『佐賀のがばいばあちゃん』 B779. 14シ

島田 洋七／著 徳間書店

著者は、1980年代に漫才ブームを作った漫才コンビ「B & B」の島田洋七さん。これは、彼が佐賀の母方のおばあちゃんに預けられた時の話である。そこでの生活は、がばいばあちゃんのおかげで貧乏でも明るい生活だった。「幸せはお金が決めるものじゃない。自分自身の、心のあり方で決まるんだ。」という彼の言葉を、この物語は証明してくれている。

『えんの松原』 Y913イ

伊藤 遊／作 太田 大八／画 福音館書店

怨霊おんりょうの住処である「えんの松原」。人がむやみに侵してはならない場所として古くから語り継がれていました。訳あって女童おとわらわとして宮中に仕える少年・音羽は、人を祟る怨霊の正体を突き止めるため、暗く不気味な「えんの松原」に立ち向かいます。人々が怨霊を信じ、恐れていた時代の物語。

『君色パレット 多様性をみつめるショートストーリー』 Y913キ

岩崎書店

自分のこと、自分とは違うあの人のこと、一人ひとり個性があって“君色”がある。新しい価値観、共感できるところ、物語を読んでどう感じるかは人それぞれ。「多様性」をテーマに、ちょっと気になるあの人おのひとの4つのショートストーリーです。多様性について感じ、考えてみませんか。きっと、新しい君色の世界が広がりますよ。シリーズ全6巻あります。

『夜の妖精フローリー』 933シ 学研プラス

ローラ・エイミー・シュリッツ／作 日当 陽子／訳 さとう ゆうすけ／絵

妖精の子どもは、生まれてすぐ歩くことも話すことも、7日目にはつばさが開き飛ぶこともできます。しかし、フローリーは生まれて3か月もたたないある晩、その美しい羽をもがれ、巨人きょじんの庭に落ちてしまいました。羽を失った悲しみの中、目にした昼間の情景に心ひかれ、フローリーは昼の妖精になろうと決意します。



小川町立図書館